

病院で働く 医療のプロフェッショナル

病院では、治療を行う医師や看護師をはじめ、さまざまな職種のスタッフが働いています。その多くは専門性の高いスキルや知識が必要で、国が認める国家資格を有していなければ就けない職種がほとんどです。日進月歩の現代医療に携わる仕事であるために、常に専門知識を磨く努力をする必要があります。また、一人の患者さんに複数の医療スタッフが連携して、治療やケアを行う「チーム医療」にも取り組んでいます。

助産師の仕事について

Interview

～助産師・^{ぼんだい}萬代 ^{まみこ}麻美子（2年目）～



助産師という職業を選んだきっかけは？

はじめは助産師という職業は、女性でなければ就けなくて分娩介助ができるというくらいしか知りませんでしたが、調べていくうちに分娩だけではなく、母乳マッサージや育児相談、学校での性教育、更年期の相談など女性とその家族の生涯において生活をサポートしていく役割を持っていることを知り興味を持ちました。また、看護学生時代に友人の出産に立ち会い、新しい命の誕生を一番近くで支えることのできる素晴らしさを実際に感じる事ができたのもきっかけのひとつです。

雲南市立病院で働こうと思った理由は？

幸雲南塾をきっかけに、雲南市へ何度も訪れるうちに自然豊かで綺麗な風景やいつでも笑顔で迎え入れてくださる出会った方々の温かさに触れ、雲南市がとても好きになりました。そんな雲南市にある病院で働けたらという気持ちになり、実際に病院見学をした際に、産後のお母さんたちのアンケートなどを見せてもらい、その内容からとても満足度の高いお産をされていると感じ、自分もスタッフの一員となり、役に立ちたいという思いが強くなり希望しました。

現在どんな仕事をしていますか？

普段は、産後のお母さんと赤ちゃんの健康状態のチェックや、授乳介助・沐浴やおっぱいマッサージ、退院指導などさまざまなケアを日々行っています。お産の入院があれば、陣痛を和らげながら安全にお産ができるよう最後までお産に付き添います。また、母子以外の入院患者さんの看護も行っています。



雲南市立病院で働いてみての感想は？

助産師としてまだ新人でわからないことばかりですが、はじめての技術などは、先輩スタッフに丁寧に教えてもらえるので安心して働くことができています。看護師としても経験が浅いので、看護技術についても誰にでも気兼ねなく相談ができ、見守られている安心感があり、とても働きやすいです。

将来どのような助産師になりたいと思いますか？

「ここでお産ができてよかった」と言ってもらえるよう、お母さんやその家族の満足度の高いケアができる助産師になりたいです。母子の健康を守るためには時に緊急性の高い技術も求められますが、どんな事態でも迅速に対応できる技術を身につけていきたいです。また、院内だけでなく、地域や学校へ出掛け、育児相談や性教育なども行っていきたいです。

助産師の仕事のやりがいを教えてください。

新しい命の誕生という瞬間に立ち会い、「おめでとう！」と言葉を掛けられることです。また、産後に「市立病院で産んで本当に良かった」「助産師さんが腰をさすってくれてとても気持ちよかった」などと言ってもらったときは、とてもやりがいを感じます。生まれてきた赤ちゃんや授乳や育児で向き合っているお母さんたちから、私もとてもやる気もらっています。

地域医療人育成センター活動報告

当院では医師、看護師をはじめとする医療職を育成することを目的に「地域医療人育成センター」を、平成21年4月に開設しました。「地域に必要な医療人は地域で生み、育てる」を理念に、地域医療をめざす医師、看護師の研修や実習をはじめ、医療体験セミナーなどを開催しています。今回は平成29年度の研修医、医学生の地域医療研修と小中高生の職場体験活動について報告します。

①初期臨床研修医の指導

※初期臨床研修医（医師免許取得2年目までの医師）の「地域医療研修」を指導

島根大学附属病院：4人 松江赤十字病院：3人
浜田医療センター：1人 姫路赤十字病院：5人 合計13人（延べ10.5ヵ月）

②医学生の実習受け入れ

島根大学医学部（地域医療実習）
5年生：16人 6年生：8人 計24人
地域医療実習
夏季地域医療実習：2人
春季地域医療実習：3人 計5人 合計29人（延べ222日）

③職場体験等セミナー事業

高校生 高校生医療体験セミナー
夏季：16人 春季：22人 計38人
大東高校地域課題研究：4人
三刀屋高校地域産業研究：11人
中学生 加茂中学校1年生班別自主研修：18人
中学生医療現場体験：8人
雲南市「夢」発見ウィーク：10人
小学生 ふるさと教育（阿用小・加茂小）：69人 合計158人



今後も、研修医、医学生、小中高生とあらゆる世代へ研修・実習・職場体験を積極的に行っていきます。

高校生



エコー体験

採血の模擬体験

小学生



阿用小

加茂小

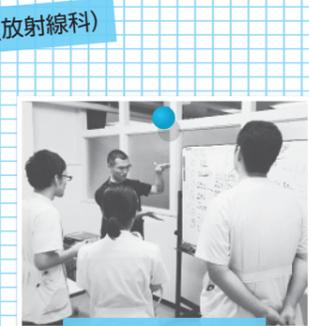
ふるさと教育

中学生



医療現場体験（病棟）

「夢」発見ウィーク（放射線科）



島根大学医学部
地域医療実習



初期臨床研修医報告会

雲南病院だより

職員採用試験案内

平成31年4月1日採用予定の職員採用試験を行います。受験希望の方は、受付期間内に受験申込書を提出してください。詳細は、雲南市立病院ホームページ(<http://unnan-hp.jp/>)をご覧ください。

1. 試験区分、採用予定人数および受験資格

試験区分	採用予定人数	受験資格
看護師	7人程度	平成元年4月2日以降に生まれた方で、看護師の免許を有する方(免許取得見込みの方含む。)
助産師	1人	平成元年4月2日以降に生まれた方で、助産師の免許を有する方(免許取得見込みの方含む。)
薬剤師	1人程度	平成元年4月2日以降に生まれた方で、薬剤師の免許を有する方(免許取得見込みの方含む。)
理学療法士	2人	平成元年4月2日以降に生まれた方で、理学療法士の免許を有する方(免許取得見込みの方含む。)
臨床検査技師	1人	平成元年4月2日以降に生まれた方で、臨床検査技師の免許を有する方(免許取得見込みの方含む。)
臨床工学技士	1人	平成元年4月2日以降に生まれた方で、臨床工学技士の免許を有する方(免許取得見込みの方含む。)
一般事務職(行政職)	1人	平成5年4月2日以降に生まれた方で、高校卒業程度の学歴を有する方

2. 受付期間

- 受付期間 6月25日(月)～8月17日(金)
- 受付時間 9時～16時(土・日・祝日を除く)
- 郵送の場合 8月17日(金)までに到着したものを受け付けます。

3. 試験日時および試験会場

試験日時	【看護師・助産師・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師・臨床工学技士】 8月24日(金)・受付：12時45分～13時00分・試験開始：13時15分
	【一般事務職(行政職)】 第1次試験 9月1日(土) ・受付：9時00分～9時15分・試験開始：9時30分 第2次試験 日程などの詳細は、第1次試験合格通知の際にお知らせします。
試験会場	雲南市立病院

※職員採用試験を通じて収集した受験者の個人情報、職員採用試験および職員として採用された後の人事管理にかかわる事務に利用することを目的とし、それ以外の目的のために使用することはありません。

【問い合わせ先】市立病院 総務課 ☎0854-47-7532 (直通)

総合診療専門医とは、患者さんの特定臓器に着目するのではなく、地域に住むあらゆる年齢、性別の患者さんの健康問題に向き合って治療を行い、「患者を多角的に診る、家族・生活背景まで診る、地域全体を診る」ことを実践する専門医です。総合診療医の育成は地域包括ケアを構築する上で必要であり、当院では、定期的に日本全国で診療を行っている総合診療を基盤とした専門医を招聘し、総合診療のスキル獲得と教育システムの構築を図っています。

7月6日に今年度第1回目となる研修会を開催しました。講師は沖縄県立中部病院、総合内科・膠原病内科の金城



総合診療医育成研修会を開催しました

光代先生を招き、「総合診療専門医による膠原病の見方とその教育方法」と題し研修会を行いました。また、翌日は症例検討会や病棟回診などを行い、膠原病領域の教育方針や教育的フィードバックをもらいノウハウを学ぶことができました。

今後もこの総合診療医研修会を継続し、総合診療医育成における教育・研修体制の構築を図っていきます。



▲病棟回診



▲症例検討会

新本館棟 紹介

産婦人科病棟編

「地域の出産を守り、子育て支援を行い、地域に貢献する病院」をめざして

当院では、近年の出産数の減少や高齢化による高齢患者さんの増加などにより産科領域の混合病棟化が進んでいました。新本館棟では、安全や感染面からお母さん・赤ちゃんを守るため産科領域をユニット化しました。

*ユニット化とは：
ひと続きになっている病棟の一部を産科専用の区分として使用すること

そうした中、3月19日新本館棟への移転開始直後に分娩入院を受け入れ、無事元気な産声を聞くことができ、産科病棟のみならず病院全体で喜び合いました。



▲産科ユニット出入口



また、新本館棟では病棟と産婦人科外来も一体化しました。専門的知識・技術を認証されたアドバンス助産師4人が中心となり、助産外来「ここまち」を開設しています。6月から相談・指導を週1回から2回に増やし体制を整えています。

産後一人で悩むお母さんや、子育て環境の準備に戸惑われる場合には、雲南市の委託事業として「産後ケア」事業も行っています。どんなことでも相談ください。



人口減少や核家族化が進む中、一人でも安心して出産・育児に取り組んでいただけるよう、産前、産後を通して、助産師が精一杯お手伝いさせていただきます。

また、限られた資源を有効活用していただき、妊産婦さんや赤ちゃんに必要なお手伝いを確実にできるように、地域のお産を守ることに貢献していきたいと思っています。

皆さんのことを「ここ(雲南市立病院)で、心待ちにしています」
『ここまち』